

# 収量・品質の向上は苗立数の確保が必須！

～は種前のほ場準備とは種機の調整がポイントです～

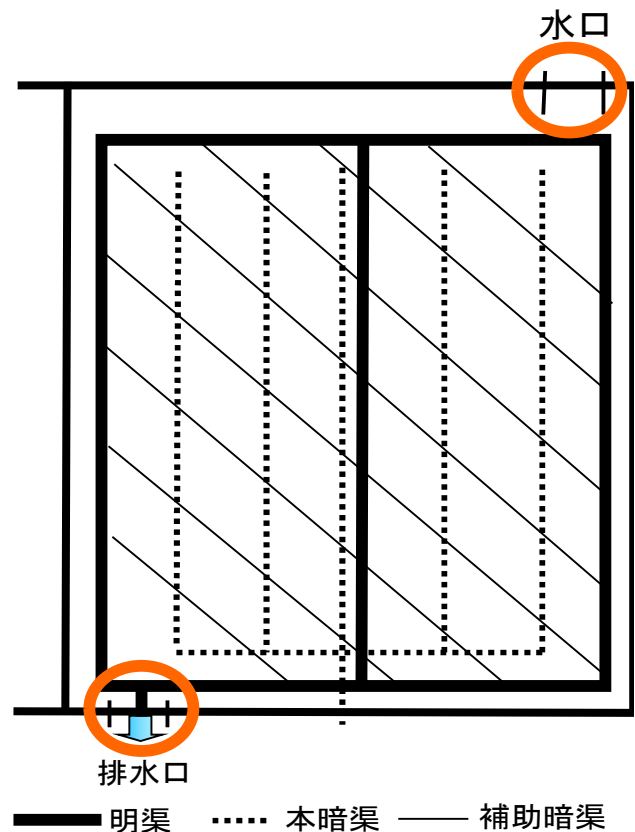
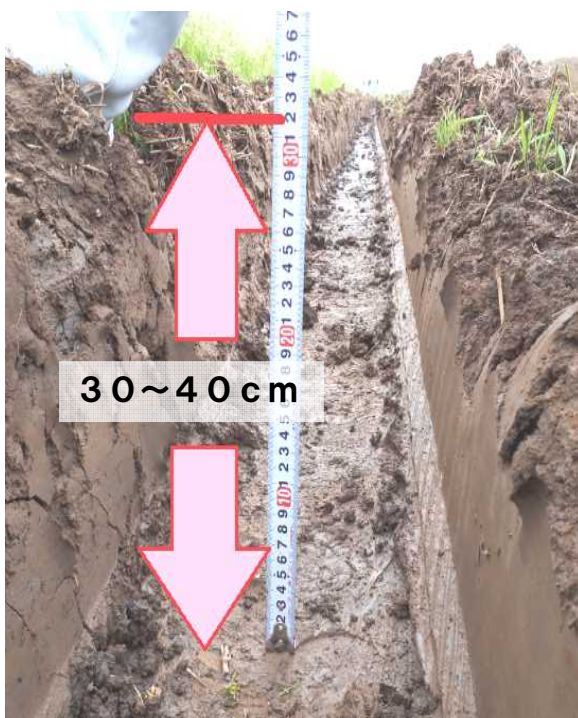
## は種前・は種作業のポイント

- ①排水対策の徹底
- ②基肥＋石灰を必ず施用
- ③碎土率70%以上を確保（出芽・除草剤に影響）
- ④は種時期に応じたは種量の設定、は種深を確認  
（機械の事前点検・調整を確実に実施）
- ⑤は種後速やかな除草剤使用・病害虫対策の実施

### 1 排水対策

～大豆は水に弱いので排水対策を徹底し、出芽・苗立を確保しよう！～

・周囲明渠は必ず施工し、深さ 30cm～40cm  
を確保する。

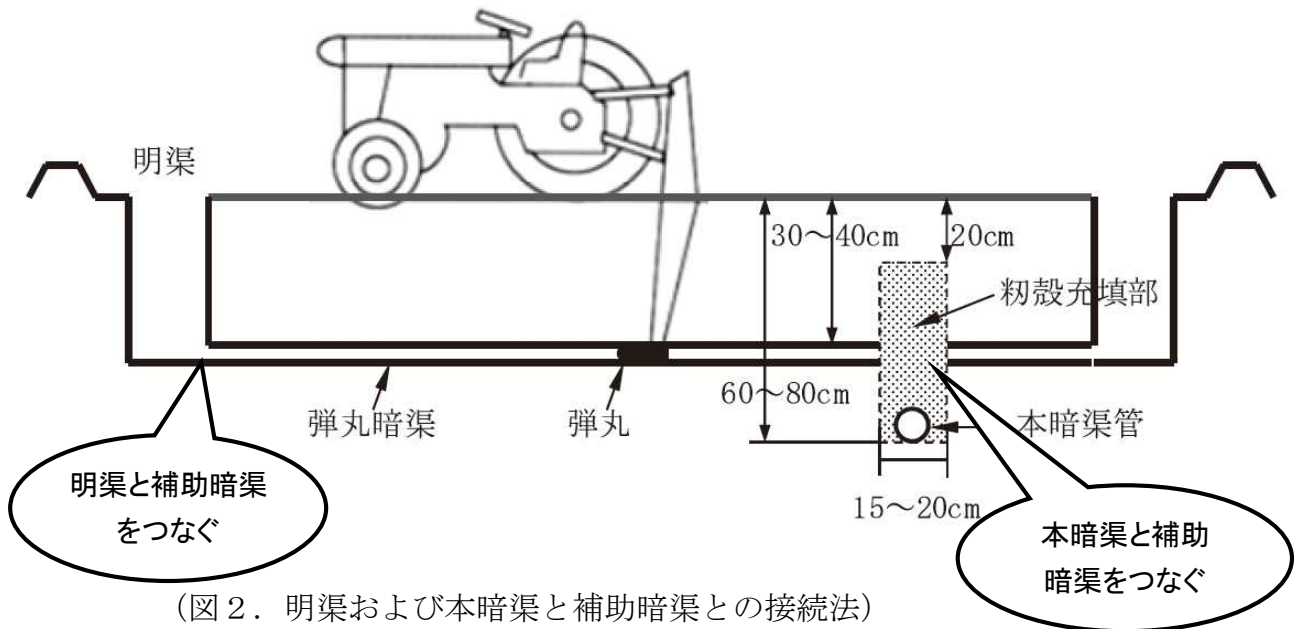


(図 1. 明渠、補助暗渠の施工の例)

- ・明渠は確実に排水口に接続する。



- ・補助暗渠（弾丸暗渠等）は、確実に明渠、本暗渠に結びつける。



- ・水口はしっかりとふさぐ。
- ・降雨後は周囲明渠や排水路を点検し、確実に排水されるように適宜補修する。

## 2 施肥

～初期生育確保のために、基肥をしっかり施用しましょう！～

表1 基肥の目安（例）

	施用成分量(10a当たり)	資材名	施用量(10a当たり)
窒素	1.5~2.5kg	えちご上越大豆肥料	20~30kg
リン酸	6.0~8.0kg		
加里	6.0~8.0kg		
pH	目標値：6.0~6.5	OM-28	80~100kg

- ・ 土壌の pH が低いと、養分吸収や根粒菌の働きが悪くなるので、土壌 pH が 6.0～6.5 となるように石灰を散布する（pH が不明の場合は、10 アール当たり 60～100kg 程度施用する）。

### 3 耕うん・碎土

～碎土率（2cm 以下の土塊比率）70%以上が目標です！～

- ・ 耕うん後の雨によるは種作業の遅れや、土壌の過乾燥による苗立ち率低下を防止するため、耕うんからは種までの作業は連続して行う。（春先の荒耕起は絶対行わず、土が乾いたときに耕うんし畑づくりまで行うこと。）
- ・ 1回の耕うんで土が十分細かくなるようゆっくり丁寧に作業する。（1回目の耕起が粗いと、何度やっても碎土率は上がりません。）



**苗立ち率低下**

**出芽苗立ち良好！**

- 粘土質で水分が多く、碎土率の確保が難しいほ場での作業のポイント
  - ① 早めの排水対策を徹底し、ほ場を十分に乾かす。
  - ② 作業速度を落として、耕うんピッチを小さくする。
  - ③ アップカットロータリーを使用する。（細かい土が表層に多くなる。）

### 4 は種

～品種や時期に応じたは種量で、目標苗立ち数を確保しましょう！～

- ・ は種の深さは表面から 3～4 cm 程度とし、ほ場が乾燥気味の場合はやや深めにし、十分鎮圧する。土壌水分が高い場合はやや浅めとする。
- ・ 畝立は種は出芽が安定し、平まきより苗立ち数が多く過繁茂になりやすいため、は種量を 1 割程少なく調整する。
- ・ また、畝の高さは 10cm を目安とする。（畝が高すぎると培土時の土量が不足するので注意する。）
- ・ は種後は畝間の溝を明渠につなぐ。
- ・ 必要は種量は目標苗立ち数と種子の大きさに応じて計算する。（大粒になるほど必要は種量は多くなります。）

表2 は種量の目安

品 種	は種時期	目標苗立 数 (本/m <sup>2</sup> )	は種密度の目安		10a 当たり 種子量の 目安
			うね幅	株 間 2粒まき	
里のほほえみ	6月1日～ 6月15日	13	75cm	16cm	6kg
エンレイ	5月25日～ 6月10日	9～10	75cm	21～23cm	3.5～4kg
	6月11日～ 6月20日	13～18	75cm	12～16cm	5～6kg

※苗立率は80%として計算。

## 5 雑草対策

～は種後の速やかな除草剤使用で雑草発生を抑えましょう！～

- ・除草剤は雑草が発芽すると効果が劣るので、は種後なるべく早い時期の土壌が湿っている状態で散布する。
- ・乳剤の場合は、土壌が過湿状態でない限り、使用基準の範囲内で希釈水量を多くし、十分な量を散布する。
- ・アサガオ類は体系防除を実施する。(除草剤と手取り除草の組合せ)

## 6 病虫害対策

～紫斑病・アブラムシ類を寄せ付けない！～

- ・紫斑病予防のため、塗抹または湿粉衣による種子消毒を必ず実施する。
- ・アブラムシ類は、褐斑粒の原因となるウィルス病を伝播するので、種子塗抹または予防粒剤により必ず防除を実施する。

- 農薬を使用する際は、使用方法・注意事項等を必ず確認し、農薬使用者が責任をもって使用すること。
- 農薬散布時は、周辺への飛散、使用者自身の安全に十分注意すること。
- 農薬使用後は、防除歴を整理し、記録・保管すること。

**問い合わせ先**：上越農業普及指導センター普及課作物担当 TEL 025(526)9406